



米穀機構 情報部

No. 17

2010年8月発行

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構)情報部
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町15-15
TEL.03-4334-2161 FAX.03-4334-2167

米穀機構情報部では、お米に関する様々な情報をホームページ「米ネット」及び紙媒体により提供しています。その一環として「米穀機構・情報部かわら版」NO.17 を発行いたします。今回は、「基本指針(平成22年7月公表)」及び参考資料を基に、米穀の需給見通し、米の1世帯当たりの購入数量、政府及び民間流通における6月末在庫状況、米の相対取引価格の推移について情報提供いたします。

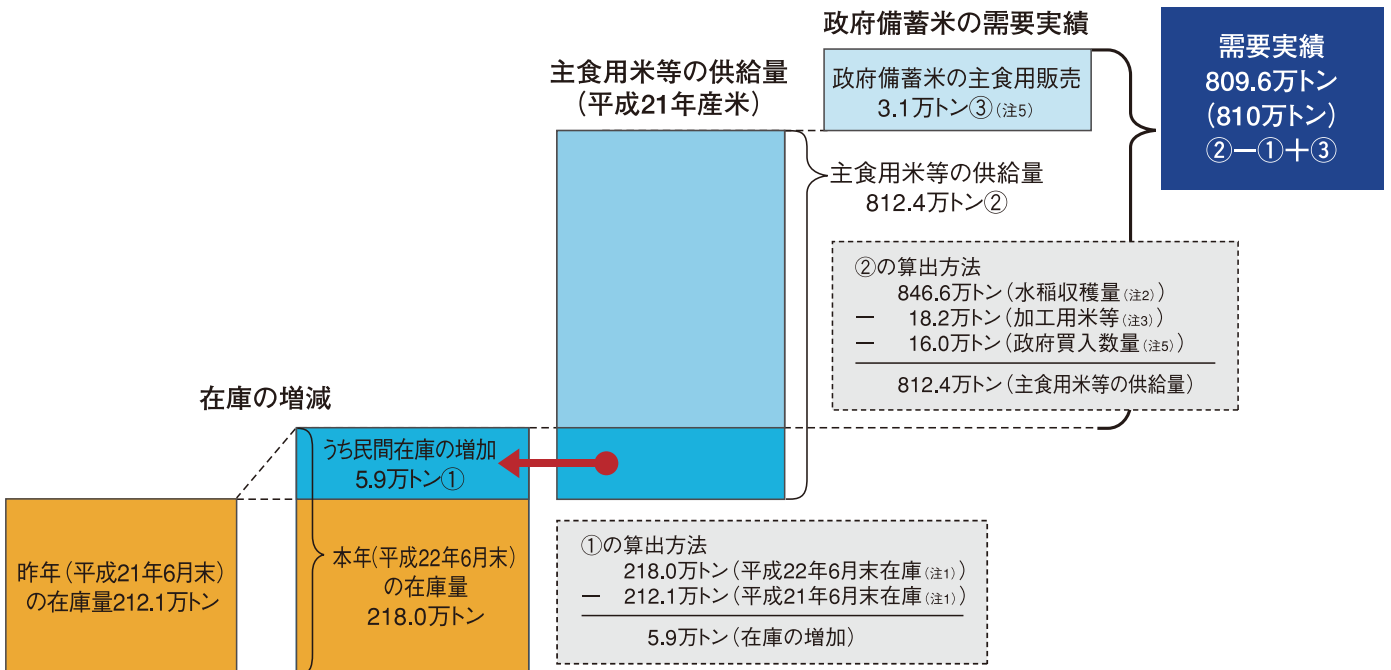
I 米穀の需給見通し

1.平成21/22年の需要実績

平成21/22年(21年7月から22年6月までの1年間)の需要実績(速報値)は図表1のとおり810万トンとなっています。

なお、平成21/22年の需要実績については、平成22年11月作成の「基本指針」における確定値報告に向け、精査を行うこととしています。

図表1 平成21/22年の需要実績(速報値)



注：1) 6月末在庫は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫に10a以上の作付生産者の在庫推計値を加えたものである。

注：2) 水稲収穫量は、21年産米の水稲収穫量(「作物統計」農林水産省大臣官房統計部)である。

注：3) 加工用米等は、米穀の需給調整実施要領(平成20年1月31日付け19総食第949号農林水産省総合食料局長通知)第3において需給調整の取組として取り扱う米穀等として定める加工用米及び新規需要米であって主食用米等へ供給されないことが確認された米穀である。

注：4) 政府買入数量は、21年産米の政府買入数量である。

注：5) 政府備蓄米の主食用販売は、21年7月から22年6月までの政府備蓄米の主食用への販売数量である。

注：6) ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

2. 全国の平成22／23年の需要見通し及び需給見通し

平成22／23年（22年7月から23年6月までの1年間）の全国の需要見通しは、平成8／9年（8年7月から9年6月までの1年間）以降から直近の平成21／22年までの全国の需要実績を用いて、トレンド（回帰式）で算出すると、平成21／22年と同数の810万となります。

しかし、この水準は現在の需要の減少傾向に見合ったものとは言いがたいところであり、過去の需要実績の精査をしたところ、平成19／20年の需要の増加は、麦・油脂等の高騰による一時的なものであったと考えられます。このことから、平成22／23年の需要見通しは、平成19／20年を除外して回帰式で再計算することとし、その結果は805万トンとなります。

また、これらの数値を踏まえた平成22／23年の需給見通しは、図表2のとおりとなります。

図表2 平成22／23年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

		全体需給	うち政府備蓄米
22年6月末在庫量	A	316	98
22年産主食用等生産量	B	813	50*
22／23主食用等供給量計	C=A+B	1,129	148
22／23主食用等需要量	D	805	50*
23年6月末在庫量	E=C-D	324	98

注：[*]を付した値は仮置きした数量である。

Ⅱ 米の1世帯当たりの購入数量

米の1世帯当たりの購入数量（2人以上の世帯）は、図表3のとおり平成21年1月以降、4月、7月、8月、10月を除いて平成22年1月まで前年同時期を下回っていましたが、平成22年2月以降は4月を除いて前年同時期を上回っており、今後の米の消費の動向が気になるところです。

図表3 1世帯当たりの米の購入数量（2人以上の世帯）

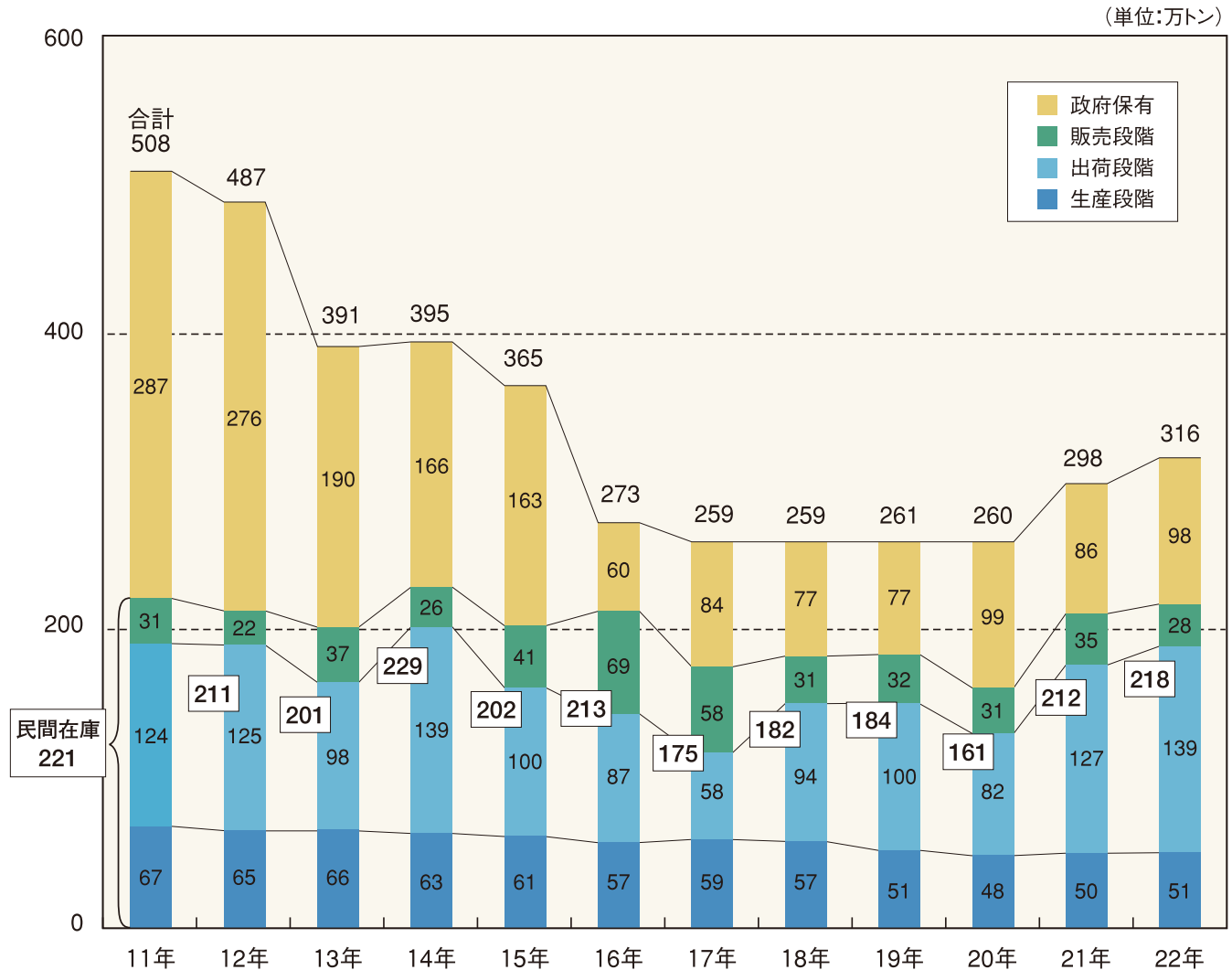
年	月	購入数量 (kg)	対前年同月比 (%)
2009 (平成21)	1	5.02	97.3
	2	5.59	95.7
	3	6.34	93.6
	4	6.62	102.2
	5	6.22	96.7
	6	6.06	94.0
	7	6.41	110.5
	8	6.61	109.3
	9	9.75	97.0
	10	11.24	100.3
	11	8.04	81.9
	12	7.15	86.5
2010 (平成22)	1	4.92	98.0
	2	5.60	100.2
	3	6.42	101.3
	4	6.40	96.7
	5	6.33	101.8
	6	6.43	106.1

資料：総務省「家計調査」、6月分（平成22年7月30日公表）データを追加した。

III 政府及び民間流通における6月末在庫状況

米穀の政府及び民間流通における6月末在庫は、図表4のとおり平成17年6月末以降260万トン前後で推移していましたが、平成21年6月末の在庫は298万トン、平成22年6月末の在庫は316万トンとなっています。

図表4 政府及び民間在庫における6月末在庫の推移



資料：農林水産省調べ

注：1)うるち玄米及びもち玄米の値である。

2)各年の民間在庫量において、

①平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。

②平成15年については、

・販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量である。

・出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の数量である。

③平成14年以前については推計値であり、

・販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量である。

・出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。

なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。

3)ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

IV 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移

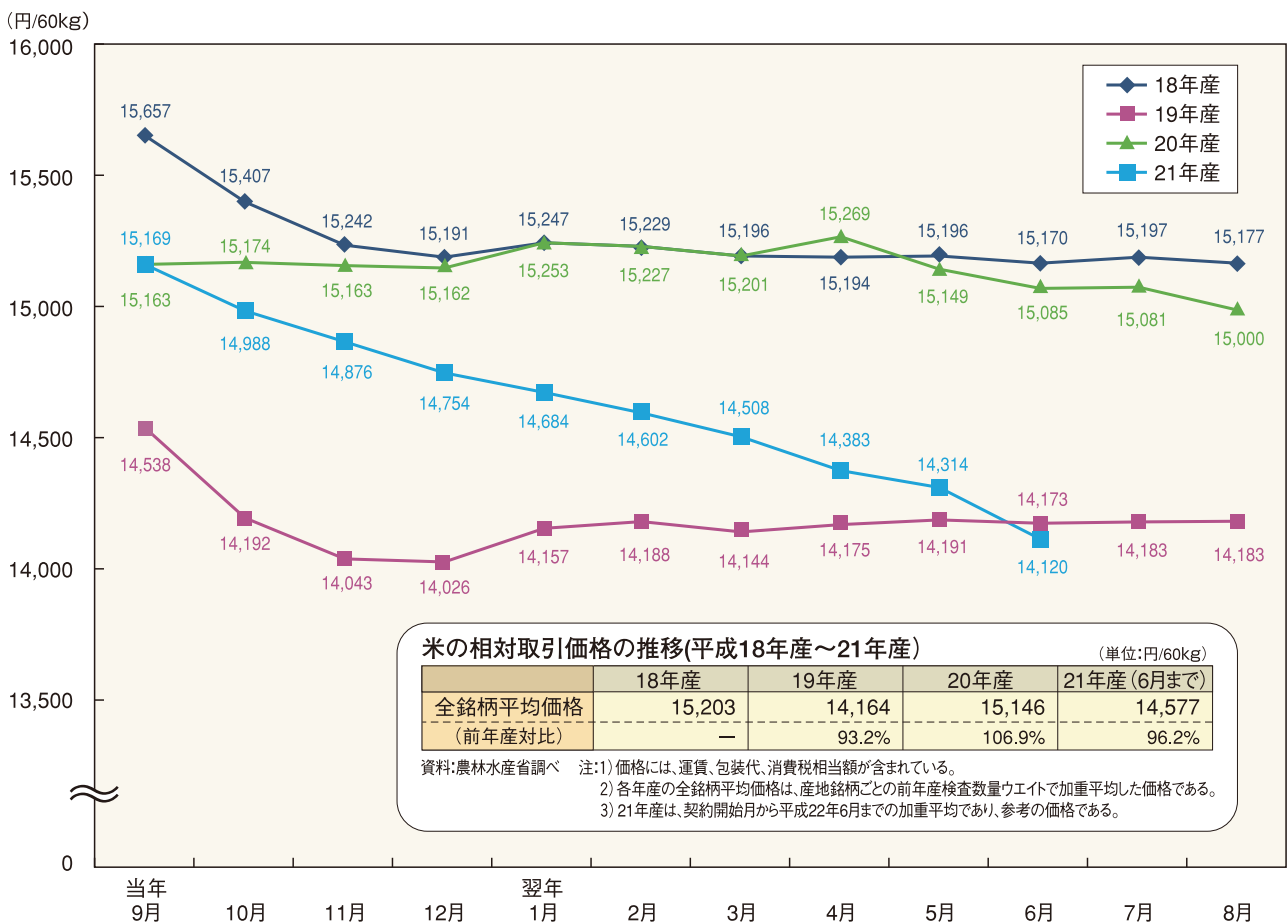
民間流通における米の月別全銘柄平均相対取引価格（平成18年産～21年産）は、図表5のとおりです。

平成18年産は15,657円から15,170円の上下幅で推移しました。平成19年産は作況99でありながら、コメ価格センターの入札価格が多くの銘柄で前年産を大幅に下回る異常事態となったことから米緊急対策を実施した結果、価格は下げ止まりましたが、14,538円から14,026円の上下幅で推移しました。

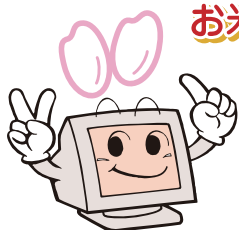
平成20年産は作況102となり集荷円滑化対策の実施（36道府県96地域）と前年の米緊急対策により需給が引き締まり、15,269円から15,000円の上下幅まで回復しました。

平成21年産は当年9月では15,163円を確保したものの、当年10月に14,988円に下落すると、その後も需給状況を反映した下落傾向が続いており、直近の平成22年6月の価格は14,120円となっています。

図表5 米の相対取引価格の月別全銘柄平均の推移（平成18年産～21年産）



注:価格には、運賃、包装代及び消費税相当額が含まれている。



お米・ごはん情報満載のホームページ 米ネット

米穀機構のホームページ「米ネット」では、お米の価格・消費・生産などの統計データをはじめ、生産者の皆様向けのお米に関する情報やすぐに役立つごはん料理レシピなど最新の情報を常時提供しています。

また、生産者の皆様からの「米ネット」に関するご提案・ご要望をお待ちしております。

「生産者のコーナー」の中の「意見を投稿する」の投稿フォームからEメールをご利用ください。皆様のアクセスをお待ちしています。